

シンポジウム 18 企画概要

タイトル	大規模災害と在宅医療 ～東日本大震災後2年の被災地在宅医療について学ぶ～
------	---

テーマ	
東日本大震災の被災地である岩手県釜石市、宮城県気仙沼市、宮城県石巻市のそれぞれの震災前、震災後、現在の在宅医療について学び、大規模災害にそなえるための在宅医療の仕組みについて検討する。	
概要	
昨年の第15回在宅医学会大会で、「被災地に学ぶ～医療 過疎地域で在宅医療をどう展開するか?」という企画に基づき、宮城県気仙沼市と宮城県石巻市の震災時・震災後の状況を学び、医療過疎地域の被災によるダメージとそこからの立ち直りの状況を共有し、大規模災害に対する支援の必要性の再認識と、日本各地での災害に対する取り組みについての関心を喚起した。 「大規模災害と慢性期ケア」について、取り組む2年目である本16回大会では、震災前それぞれ異なる状況にあった、被災地の3地域（岩手県釜石市、宮城県気仙沼市、宮城県石巻市）の震災前、震災後、現在にいたる在宅医療について、それぞれの地域の医療者である演者から学び、大規模災害にそなえるための在宅医療の仕組みについて討論したい。 岩手県釜石市は震災前から演者の釜石ファミリークリニック・寺田医師を先頭に在宅医療と地域連携のすぐれた地域であり、震災では大きな被害を受けたものの、寺田医師は釜石医師会災害対策本部長として支援のコーディネートにも活躍し、復旧を果たしながら、あらためて県立釜石病院をはじめとする地域内医療機関や在宅リソースとの連携を強め、現在にいたる。 宮城県気仙沼市は、震災前はけっして在宅医療の盛んな地域ではなかったが、震災により常勤医師のいなくなった気仙沼市立本吉病院にふたりの総合診療型の医師（そのうちのひとりが今回の演者の齊藤医師）が赴任したことにより、在宅医療中心の病院に変革をとげ、本吉地区を中心に在宅医療は劇的に進化している。 宮城県石巻市は、在宅医療のリソースは不十分であったが、祐ホームクリニックという外部支援型の在宅診療所の開設と活動に続き、被災して全壊した石巻市立病院に代わり、大規模仮設住宅周辺の医療を支えるためにできた開成仮診療所に佐久総合病院で地域医療の実績をもつ演者の長医師が赴任し、さらに本年8月に開成包括ケア センターも開設されたことで、プライマリヘルスケアの理念に基づく医療活動が展開しようとしている。 この3地域のそれぞれの話を聞くなかで、参加者は自らのホームエリアでの、大規模災害にすこしでも対応できる事前準備やシステムの構築、災害時の相互支援方法の検討、また昨今の大きな流れである地域包括ケアにおけるプライマリヘルスケアの実践について、学び論議し交流する機会としたい。	